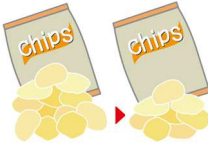
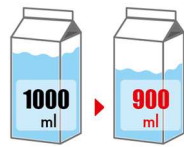
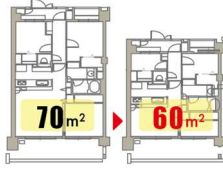


金融機関の手数料値上げ

私たちのまわりのステルス値上げ！価格は、据え置きなのに量が…

<p>食べものでも…</p>  <p>ポテトチップス</p>	<p>飲みものでも…</p>  <p>牛乳</p>	<p>不動産でも…</p>  <p>3LDKの部屋</p>
---	--	--

世間でも左記のようなステルス値上げが増えているように、金融機関でも手数料の値上げが増えています。

代表的な例として、ゆうちょ銀行のATMの一部有料化、硬貨を伴う手続きの有料化や、三菱UFJ銀行の新規取引での紙の通帳の発行手数料

など、今まで無料だったものが有料化したり、手数料の値上げなども徐々に増えています。

今まで銀行の収益は融資金利から預金金利を引いた利鞘がほとんどでしたが、昨今は超低金利時代が続く、利鞘で稼ごうと背景もあり、手数料収入に力を入れざるを得ないという銀行の懐事情があります。

取引している金融機関とうまく付き合う事はとても重要なことですが、経営者様としてはこの厳しい状況の中で無駄な手数料を払わないようにするために対策が必要です。その一歩として金融機関の手数を把握することが重要ですので、融資などに係る手数料をいくつか例に挙げてご説明させていただきます。

●担保取扱手数料

担保を設定する際などに発生する手数料です。プロパー融資などを行う際に不動産などを担保に設定する際に発生し、33,000円～55,000円ほどの価格帯が多いです。

●融資事務取扱手数料

借入を行う際に発生する手数料で、借入をする度に毎回発生します。3,300円～11,000円ほどの価格帯が多く、金融機関によっても金額は様々です。

●繰上返済手数料

借入を約定期間より前に返済する際に発生する手数料です。11,000円など一律の価格の金融機関もあれば、借入残高の1～2パーセントの手数料を取る金融機関もあります。借換えの場合にも、この手数料が発生する場合もあるので注意が必要です。

→これらは頻繁に借入を行ったり、何口かの借入をまとめて借り換えなどを行うと手数料負担が増えます。

そうすると、長期的な計画的を立ててまとまった金額を借りることが重要となってきます。

また、借入の方法として、当座貸越という方法があります。また別の機会に詳しく説明させていただきますが、融資枠の中であれば「いつでも借りることができ、いつでも返せる」という特殊な融資形式で、融資手続きの手間と手数料を削減できます。審査条件はとても厳しいですが、業績の良い企業様でしたら可能性がありますので、取引銀行に確認をしてみましょう。

●条件変更手数料

借入の条件変更をする際に発生する手数料です。借入を条件変更すると金融機関からの信頼が著しく低下するので注意が必要であり、条件変更の更新のたびに手数料が発生します。

【まとめ】

金融機関によってさまざまな手数料があります。しかし、融資に係る手数料は銀行のホームページを見ても記載されていない場合がほとんどです。各金融機関の手数料を知るためにも、金融機関の担当者に手数料一覧表などをもらえるか確認してみましょう。取引している金融機関の手数を比べて、手数料の観点から借入先を考えてみるのも良いかもしれません。